

時代が求める環境・社会貢献を通して、 次の100年へ、持続可能な企業を目指します。

～ 100年のありがとう そして 100年後の地球を守るために ～

未曾有の被害をもたらした東日本大震災は、これまでわが国が培ってきた安全や信頼といった仕組みを根底から揺るがすと同時に、あらためて地域社会との絆や資源の大切さを思い知らせることとなりました。

そんななか、創業100周年を迎えたユニーが次世代に向かって取り組むべき環境・社会貢献について、百瀬則子環境社会貢献部長が前村哲路社長にインタビューしました。

東日本大震災で得た 100年目の教訓

●百瀬 ユニーは今年、創業100周年を迎えました。前村社長は常々、100年目のユニーと環境や地域社会への貢献活動は非常に密接なつながりがあると言っています。

●前村 要は、「なぜ、ユニーが100年も持つ企業でありえたか?」ということです。私はその理由を「①お客さま満足を第一にする」「②地域社会への貢献」「③社員を大事にする」「④独自の技術(他社にない商品力・販売力)」の4つだと考えています。何か困難なことに直面したとき、この4つを拠り所にすることが大事で、そこからおのずと解決への道が開かれると考えています。なかでも2つ目の「地域社会への貢献」は非常に重要な要素です。

小売業というのは地域産業であり、地域社会への貢献なくしては成り立ちません。常に社会に対してその存在価値を示し続けることによって、持続可能な企業となれるのです。ユニーが今、エコ・ファースト企業として「未来の子供たちに美しい自然を残したい」をテーマに、環境をメインとした地域社会への貢献に率先して取り組んでいるのはその最たるものです。

●百瀬 そんななか、3月11日に東日本大震災が発生しました。震災にあった地域でもユニーは営業していますが、被災地支援としてユニーの取り組みを振り返りたいと思います。

●前村 当社は関東地区に34店舗展開していますが、うち4店舗が損壊するなどの被害を蒙りました。しかし幸いなことに人的被害はなく、その意味においては避難誘導が

迅速にできたものと社員に感謝し、誘導に従ってくださったお客さまに感謝しています。

●百瀬 地震発生直後、非常に早い段階で本社と関東事務所に「災害対策本部」が立ち上がりましたね。

●前村 まず行ったことは、各店舗の被害



状況の収集と生活必需品の調達です。トラック12台を用意し、福島県いわき市と宮城県仙台市そして岩手県に、被災地救援としてその日のうちに緊急支援物資を送りました。続けて義援金を募りましたが、2週間ちょっとの間にグループ全体で3億5,000万円集まり、日本赤十字社を通して寄付しました。

●百瀬 また、被災地では店舗損傷や商品調達経路を閉ざされ、休業を余儀なくされた小売店も多く、営業できたスーパーやコン

ビニでも物資不足に陥りました。

●前村 当社でも3店舗が震災翌日に営業できず、水などの必要物資だけを店頭で販売しました。関東を拠点とする小売企業は、商品の調達が困難だったと聞いています。ユニーは本社が中京圏ですから、こちらから送ることができ、被災地域にある店舗ではうちが一番物が揃っていたといっても良いでしょう。そういう点でもお客さまからも非常に頼りにされ感謝されましたね。

●百瀬 また、義援金の寄付だけではなく、従業員が自ら被災地支援の行動を起こそうと、従業員の家庭で眠っているタオルや毛布などの贈答品、衣類などを集めました。それを会社が用意した大人用紙オムツやマスクと一緒に、前からおつきあいのあった車椅子センター「AJU自立の家」や「認知症の人と家族の会」を通して、支援物資を必要とする現地のNPOに直接送り込みました。それらを避難所に入らず自宅で避難している方々にお送りしたのです。これが感謝状をいただけるほど、喜んでいただいたようです。

●前村 結構集まったと聞いていますが、どのくらい集まったのでしょうか?

●百瀬 段ボールで348箱。11トン車2台分になりました。認知症の方や車イスの方の場合、避難所暮らしは難しく自宅にとどまる方が多かったそうです。避難所ではタオルや服はもういらないとの報道がありましたが、今回図らずも必要な方に必要なものをピンポイントでお送りできたことに大きな意味がありました。

●前村 小売業の役割というのは、お客さまに必要なものを調達してお届けするという、本当にシンプルなこと。しかしこれがちゃんとできていることが大きな社会貢献なのです。